



(発行者)
公益財団法人栃木県臓器移植推進協会
理事長 稲野 秀孝

(編集責任者)
企画委員長 村山 直樹

(事務局)
宇都宮市昭和1丁目3番10号
栃木県庁舎西別館4階
TEL 028-625-7350
FAX 028-625-7362

『巻頭言』



公益財団法人栃木県臓器移植推進協会
理事長 稲野 秀孝

この度の能登半島地震により犠牲となられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

臓器移植推進協会だより第34号（令和5年度版）の発刊にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

関係者の皆様には日頃より当協会の事業運営に関しまして、格段の御指導御鞭撻を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、本県におきましては、今年度2件の脳死下での臓器提供がなされ、1995年以降これまでに29件の臓器提供（脳死下臓器提供18件・心停止後臓器提供11件）があり、徐々にではありますが移植医療が着実に推進しつつあると考えております。

一方で、県内の腎臓移植希望者は約200名、他にも心臓、肺、肝臓、膵臓及び小腸など、依然として多くの方々が臓器移植を待ち望んでいる状況にあり、今後とも、県民への臓器移植の理解を深める普及啓発活動をより一層充実させる必要があると考えているところです。

当協会では、毎年10月の臓器移植普及推進月間に合わせて街頭キャンペーンを実施して参りましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症

の5類移行に伴い、医療機関、患者団体、ライオンズクラブなどの御協力をいただき、ほぼ通常の規模・内容でキャンペーンを行うことができました。加えて、マスメディアを利用した啓発活動や宇都宮タワーのグリーンライトアップ、そして地元プロバスケットボールチームの宇都宮ブレックスと連携してオリジナリティ豊かな共同企画を実施するなど、県民の皆様、臓器移植に関する一層の理解を深めていただくための事業を積極的に展開したところです。

また、児童・生徒や一般の方々に移植医療を通して命の尊さをお伝えする「命の学習会」も7回開催し、合計で724名の御参加をいただきました。

当協会は、公益財団法人に移行して12年目を迎え、今後とも臓器移植の普及啓発活動の充実や、移植医療を円滑に実施するための事業を幅広く実施し、より公益性の高い法人として尽力して参る所存であります。

結びに、医療機関をはじめとする関係機関・団体の皆様、そして県民の皆様におかれましては、臓器移植の推進に向けて、更なる御理解と御支援を賜りますようお願いを申し上げます。

専門委員会だより

臓器移植推進会議（企画委員会）活動

委員長 村山 直樹（協会理事）

本会議は、臓器移植推進事業の一層の充実を図ることを目的に、平成27年度から従来の企画委員会を「栃木県臓器移植推進会議」として拡充し、今年度で第9回となる会議を開催いたしました。今回は、対面での開催（R6.1.16）となり、4年ぶりに委員全員揃っての意義深い会議となりました。会議では、本県の臓器移植推進事業の現況や今後の取組について各委員に提示させていただき、令和5年度事業の実施状況や令和6年度の事業計画案について承認いただいたところです。

令和5年度の意味表示カード普及啓発事業においては、10月の臓器移植普及推進月間を中心に行っている「街頭キャンペーン」を県透析医会、腎友会及びライオンズクラブ等に御協力頂き、ほぼ通常の規模・内容で実施することができました。また、命の大切さ・臓器移植への理解を深めるための「命の学習会」については、移植医の先生、移植経験者の方及び当協会所属の県移植コーディネーターを講師として、2月末までに7回開催し、合計で724名の児童・生徒や一般の方々に参加いただきました。そして、地元プロバスケットボールチーム「宇都宮ブレックス」との共同企画事業として、有名選手等を「栃木県臓器移植推進サポーター」に任命し、テレビ・ラジオでのPRや街頭キャンペーン等での普及啓発活動の一翼を担って頂くとともに、1～2月開催のホームゲーム会場において、入場者に本県オリジナルの意味表示カードを配布する啓発活動も実施することができました。

コーディネート活動奨励事業では、県内中核病院の院内移植コーディネーターの皆さんを対象として、円滑な連絡調整・相談体制等を構築するための研修会を対面にて年度3回実施し、グループワークやロールプレイも交えた熱心な意見交換・情報共有も行うことができました。

臓器移植推進事業では、今年度県内で2件の

脳死下での臓器提供がなされました。提供施設はいずれも自治医科大学附属病院で、当協会では、県移植コーディネーターが準備段階から病院に伺い、先生方や院内コーディネーターの方たちと事前調整をさせて頂きました。

そして、令和6年度の事業計画については、「臓器移植普及推進街頭キャンペーン」・「宇都宮ブレックス選手等の推進サポーター任命事業」や「命の学習会」など、従来からの普及啓発事業を着実に継承実施しつつ、適宜改善・向上を図っていくこと、また、院内コーディネーターを含む医療機関・医師会・栃木県・日本臓器移植ネットワーク等との連携を一層強化しながら各事業に取組んでいくことについて承認されました。

透析委員会活動

委員長 齋藤 修

透析委員会では、県内の透析医療機関の協力を得て、毎年12月末時点での「人工透析医療実態調査」と、新たに透析療法を導入された患者さんの状況について、患者匿名により医療機関から報告いただく「透析導入調査」を行っています。

両調査の結果につきましては、それぞれ分析の上、統計処理したものを公表し、行政の腎不全対策や、透析医療の質の向上に役立たせていただいております。

今年度の委員会は、4年ぶりの実地開催（R5.11.2）となり委員全員の出席をいただきました。委員会においては、令和4年分の調査結果の分析と、令和5年分の調査実施計画の策定を行いました。

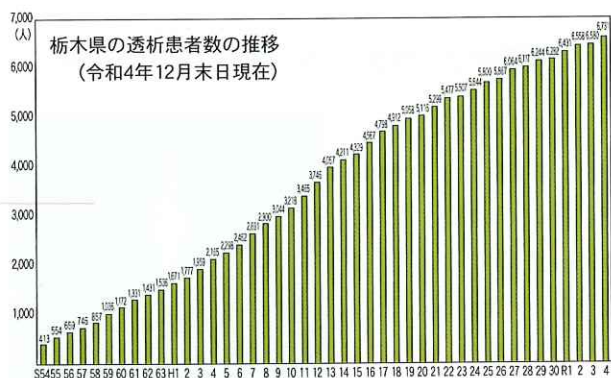
令和4年分の調査結果につきましては、その一部（透析医療機関と透析患者の動向、腎臓移植の現況等）を本紙に別掲しておりますが、全透析患者数は令和3年より151人増加し6,731人、平均年齢は68.7歳でした。急激な増加の時代は終わったように思えますが、本県では未だ、なだらかな増加傾向が続いています。原疾患別では、糖尿病性腎症が45.5%、慢性糸球体腎炎

(ネフローゼを含む)が25.8%と多くを占めています。また、1年間の透析導入患者数は760人、平均年齢は69.12歳でした。

令和5年分の調査実施計画の検討においては、調査票の様式の見直しを行いました。本県調査の独自性である市町ごとのデータ調査を残しつつ、日本透析医学会の調査様式に概ね準拠する形として回答の効率化等を図ったところです。

各透析医療機関におかれましては御多忙のところ、大変お手数をおかけいたしますが、本県の貴重なデータとなります実態調査・導入調査への御協力を引き続きお願いいたします。

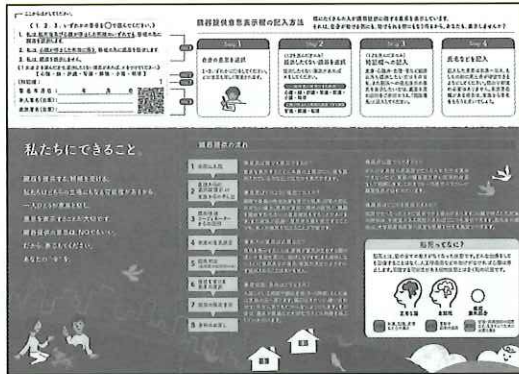
皆様の御厚情に感謝しますとともに、今後とも、透析委員会の活動に御理解と御協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。





〔県南地区〕 イオンモール佐野新都市店

10月14日(土)に、佐野市のイオンモール佐野新都市店で実施しました。今回は、試合の合間を縫って、宇都宮プレックスのSUMIREさんとマスコットのブレッキーも応援に来てくれました。お陰様で、用意したリーフレットとエコバッグの800セットが、あっという間になくなりました。



宇都宮タワーのグリーン(※)ライトアップ等

臓器移植普及推進月間における「街頭キャンペーン」

10月の臓器移植普及推進月間に合わせて実施している「街頭キャンペーン」ですが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、今年度は、透析医療機関、栃木県腎友会、ライオンズクラブ等関係者の協力をいただき、ほぼ通常の規模・内容で行うことができました。

〔県央地区〕 オリオン通りイベント広場

9月24日(日)に、宇都宮市の「オリオン通りイベント広場」で実施しました。今回は、とちまるくんも応援にかけつけ、「臓器提供意思表示カード付リーフレット」に啓発グッズ(エコバッグ)をセットにして、800セットを配布することができました。



臓器移植普及推進月間の10月1日から31日までの間、17時から21時まで、宇都宮タワーをグリーンにライトアップしました。県都のシンボルである宇都宮タワーを臓器移植のシンボルカラーのグリーンにライトアップし、県民の皆さんが臓器移植について考えるきっかけ作りをするとともに、臓器提供者



への感謝、移植を待つ人たちや移植医療を支える医療関係者へのエールの意味も込めました。

そのほかにも、県庁舎に懸垂幕「10月は臓器移植普及推進月間です」を掲示したり、県庁正面玄関のとちまるくん人形に推進月間を知らせる飾りつけなども行いました。

(※) 1980年代、移植医療の象徴としてアメリカでグリーンリボンが考案され、現在では世界的に使われています。日本では、1997年10月16日に臓器移植法が施行されたことから、10月16日を、家族や大切な人と「移植」のこと、「いのち」のことを話し合い、お互いの臓器提供に関する意思を確認する日『グリーンリボンデー』としています。

命の学習会（令和5年度）

命の学習会講師派遣事業は、小学校・中学校・高等学校などの児童・生徒に臓器移植医療を通じて、命の尊さや大切さを理解してもらうため、平成20年度から実施しております。

令和5年度は5学校2団体で実施致しました。

- 県立宇都宮東高等学校附属中学校 3学年 (104人) 医療従事者の講話
- 小山市立小山第二小学校 5～6年生 (47人) 自他の生命の尊重
- 宇都宮市立横川西小学校 6学年 (90人) 命と倫理観について
- 栃木市立岩舟中学校 全学年 (343人) 人権週間における命の大切さについて
- 那須町立那須中央中学校 2学年 (100人) 「命の週間」関連授業
- 足利市生涯学習課 一般市民 (20人) 人権講座① 足利市出身の移植経験者の講話
- 足利市生涯学習課 一般市民 (20人) 人権講座② 足利市出身の移植経験者の講話 「道徳」や「人権」、「医学的分野」など、授業や講座の目的に沿った内容で実施致しました。

授業終了後には様々な感想が寄せられました。

- ・医療従事者の方の講話は、すごくわかりやすかったし、思っていた何倍も身近なことなのだと思えることができた。(中学3年)
- ・正しく理解し、よく考えることが大切だと思った。(中学3年)
- ・臓器を提供する人も移植を受ける人も、どちらの勇気もとてもすごいなと思った。
- ・健康でいることの幸せを実感した。(中学2年)
- ・命の授業を通して医学に興味を持つようになった。本物そっくりの人工臓器を作り、たくさんの人を助けたい。(小学6年)
- ・臓器移植はだれかの命を救うことになり、だれかのために生きていくことになるのですね。(小学6年)
- ・毎日が宝物だとわかったので、今日を大切に生きていきたい。(小学5年)
- ・臓器の種類や大脳・小脳・脳幹について知ることができた。もっと、からだの中のことを知り

たいと、きょうみをもちました。(小学6年)

- ・地元出身の移植経験者の講話だったので、臓器移植について、とても身近に感じ、自分のこととして捉えることができた。(成人)
- ・臓器移植をとりまく世界的な問題や、課題について理解できた。(成人)



院内移植コーディネーター研修会

臓器移植の推進を図るため、県内の中核病院に院内移植コーディネーターを設置しております。

また、院内移植コーディネーターの一層の資質向上と円滑な臓器提供のために研修会を開催しております。これまで、新型コロナウイルス感染拡大の影響で縮小や中止を余儀なくされましたが、今年度は通常どおり3回開催することができました。

今年度の実施内容等は次のとおりですが、第49回研修会ではグループワークやロールプレイを取り入れ、貴重な意見交換・情報共有ができたとの感想があり、第50回研修会では、脳死下臓器提供を行った医療機関からの実体験の報告がありました。

○第48回栃木県院内移植コーディネーター研修会 (令和5年6月29日)

「栃木県院内移植コーディネーターの活動について」

- (1) 日常活動と臓器提供時の具体的
- (2) 臓器提供の流れ(フローチャート)
- (3) 臓器提供時の具体的役割と役割遂行上の課題について
- (4) 最新の情報

(公財) 栃木県臓器移植推進協会

五反田真弓県臓器移植コーディネーター

○第 49 回栃木県院内移植コーディネーター研修会
(令和 5 年 10 月 26 日)

演習「院内コーディネーターの初期対応について」

- (1) 臓器提供の流れ
- (2) 家族の臓器提供意思の確認

(グループワーク・ロールプレイ)

五反田県臓器移植コーディネーター



○第 50 回栃木県院内移植コーディネーター研修会
(令和 6 年 2 月 29 日)

- (1) 「臓器の移植に関する法律」ガイドライン・施行規則等の一部改正について

五反田県臓器移植コーディネーター

- (2) 「脳死下臓器提供を経験して」

自治医科大学附属病院

院内移植コーディネーター 大貫 紀子 氏



関係者の皆様から

栃木県腎友会の活動について

栃木県腎臓病患者友の会 会長 長山 八洲 稔

栃木県腎友会（栃木県腎臓病患者友の会）は、県内の医療施設で透析を受けている方々で組織

する患者会です。本会の活動について紹介させていただきます。

・透析医療制度を維持するための活動

誰もが等しく公費で透析医療を受けられる現制度を維持し、高齢化する透析患者の介護制度を新たに確立するため、国会請願活動や県保健福祉部に対する要望活動を実施しています。

・健康的な透析ライフを送るための活動

健康的な透析ライフを送るには、自分の病気を理解し、自己管理能力の向上を図る必要があります。本会では『栃腎友だより』、『あおぞら』発行の他に、「健康長寿部会」が主催する健康教室「マンスリー・スロージョギング」を開催等、健康に関する情報提供を行っています。また、会員が日頃抱える病気や生活の悩みを個別に相談できる、電話相談会を毎週土曜の午後に開設しています。

・会員の安心安全のための活動

新型コロナウイルス感染症が、感染症法上の 2 類から 5 類に引き下げられました。しかし高齢者や基礎疾患を有する方の感染症重症化率は依然として高いことから、本会では感染予防方法等の情報提供を継続し、会員の皆さまが安心・安全に透析が受けられる環境づくりに協力しています。

・透析から離脱するための活動

腎臓移植は透析から離脱する唯一の医療です。栃木県内でもこれまでに一定数の透析患者が腎移植（生体+献腎）により透析から離脱することができました。しかし、平成 22 年 7 月の「改正臓器移植法」の施行以降も、献腎移植の数は限られております。私たちは、献腎移植が栃木県内でさらに進むよう、栃木県臓器移植推進協会に協力しています。

・将来にわたって会を継続するための活動

栃木県腎友会は令和 5 年 12 月に創立 50 周年を迎えました。先人の方々が設立・発展させた本会を、未来につなげていくため組織の維持に努めています。さらに、将来にわたって本会を継続運営できるよう、次世代の担い手を育成するため、ユース部の拡充を図るとともに、SNS による情報発信にも努めています。

・会員の健康のための活動

本会で主催又は参加する対面式イベント等については、各種感染症の状況を鑑み、会員の健康を第一に考慮して開催・参加の判断をしています。

今後は対面式イベントに加え、インターネット（WEB会議・YouTubeアップ等）を利用した新しいイベント企画を計画しております。

結びに、本会は令和5年12月に創立50周年の節目を迎えることができました。これも会員の皆様、透析施設の先生方、スタッフの皆様、また関係各機関の方々の御理解と御支援のおかげです。本紙面をお借りして皆様に感謝申し上げます。

地震災害、戦争、異常気象、経済の衰退、少子高齢化等、日本を取り巻く情勢は混沌とし、社会的弱者は孤独になりがちですが、本会は透析患者の支えになれるよう今後も活動してまいりますので、読者の皆様におかれましても、本会に御理解・御協力くださいますようお願い申し上げます。

近況報告

自治医科大学 移植・再生医療センター
センター長 佐久間 康成

2020年4月より前任の八木澤から引継ぎセンター長を拝命した佐久間です。元々、消化器外科医ではありますが、移植とのかかわりは、腎臓の方が長くこれまで300例以上の腎移植に携わってきました。この間、ドナーの鏡視下手術導入やレシピエントの小切開手術（7cm）に力を入れてきました。2019年4月より自身は移植外科の科長となり、腎臓外科に新たに岩見大基教授を向かえ、肝臓が佐久間、腎臓が岩見の両輪で移植医療を行っております。

元々当施設は小児肝移植を中心に行って来ましたが、成人の症例も増え2022年には成人の脳死肝移植施設として認定されました。2023年には第一例目となる成人の脳死肝移植も無事行う事ができ、生体肝移植も併せると毎年20例以上の肝移植を行っております。また、2022年からは肝移植ドナーにも腹腔鏡手術が保険適応となり、当院でもいち早く導入し肝臓を取り出すだけの傷で手術を行っております。痛みも少なく、在院期間も短縮され、ドナーの負担軽減に繋がっているものと考えます。これらの実績を重ねつつ、徐々にではありますが関東一円から患者さんが紹介されるようになってきました。

さて、当院は現在、膵臓、小腸も脳死移植施設認定を受けており、すべての腹部臓器を包括的に移植できる施設として歩き始めています。最近では、透析中の1型糖尿病の患者さんや短腸症候群の患者さんも紹介される様になってきました。肝腎、膵腎同時移植の待機患者さんも増えてきていますが、今後は肝小腸などの移植も行っていく予定です。これら多臓器にわたり臓器不全に陥っている場合は情報自体も少なく、お困りの先生方もいらっしゃるのではないかと思います。いつでも相談できますので、ご連絡いただければ幸いです。また、当院では実施できませんが、1型糖尿病に関しては、細胞移植である膵島移植の相談も可能ですのでお問い合わせください。
佐久間 康成：naruchan@jichi.ac.jp

皆さまこんにちは。獨協医科大学 肝・胆・膵外科です

獨協医科大学 肝・胆・膵外科 磯 幸博

皆さまこんにちは。獨協医科大学 肝・胆・膵外科の磯^{いそ}幸博^{ゆきひろ}と申します。われわれ獨協医科大学 肝・胆・膵外科は、肝臓・胆嚢・膵臓の良悪性疾患治療と肝臓・膵臓・腎臓の移植医療に力を入れております。肝臓切除・膵臓切除に関しては近郊でも有数の施設であり、肝臓・腎臓・膵臓移植も多数の治療実績を誇ります。

日本の移植医療の成績は世界でもトップクラスになり、2010年の改正臓器移植法施行後は脳死ドナーも増加傾向となっております。特に当科で脳死膵臓腎臓同時移植手術を受けられた患者様は、インスリン注射や血液維持透析から離脱することができ、新たな日常生活を送ることが出来ております。

獨協医科大学 肝・胆・膵外科では日本移植学会移植認定医と認定レシピエント移植コーディネーターを有し、近郊地域の皆さまの移植医療が円滑に進むよう万全の体制を整えております。移植医療に携わる者として、すべての移植手術を安全に成功させ、患者様には元気にご自宅に帰って新たな日常生活を送って頂きたいという思いを常に抱いております。移植医療を必要とされている患者様がいます以上、われわれも誠心

誠意、信念と使命を持って治療にあたらせて頂きますので、ご相談やお悩みなどございましたら、お気軽に下記までご連絡下さい。皆さまからのご連絡をお待ち申し上げます。

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林 880 番地

獨協医科大学病院 肝・胆・脾外科

外来受付電話：0282-87-2203

医局直通電話：0282-87-2158

医局直通FAX：0282-86-6317

メールアドレス：geka2dokkyo@hotmail.com

院内移植コーディネーターとして

とちぎメディカルセンター とちのき
看護師長 別井洋子

とちぎメディカルセンターは2013年に経営母体が異なる市内の急性期病院が統合し、機能分担して生まれた変わった病院です。「急性期医療のしもつが」「回復期・慢性期・緩和ケアのとちのき」「保健・介護事業の総合保健医療支援センター」。病気やけがで医療が必要になっても最期まで住み慣れた地域で完結できるようにと創立されました。

私の勤務先は慢性期医療の「とちのき」で、2018年に前任者から院内移植コーディネーターを引き継ぎました。この役割を引く継ぐまで、臓器移植に興味はありましたが名前程度しか知りませんでした。研修に参加をして、TMCしもつがのコーディネーターの協力も得ながら、少しずつ自分なりに理解していきました。自施設の移植医療の実際のかかわりは角膜の提供のみで、コーディネーターを引き継ぐ前に角膜の提供があったようですが、その後の提供は「0件」でした。2020年にCOVID-19の流行により提供希望者の報告があっても長期臥床などによる肺炎の合併が多く、提供に至ることが出来ませんでした。善意の上で成り立つ臓器提供を無駄にしたいくはないと思いながら、今回の感染症では無力を感じました。しかし、COVID-19の影響で激減してしまった国内の臓器提供も、2023年度は既に年度半ばで前年度に並ぶ件数になっていると研修で知りました。海外の臓器提供数の比較としては差はありますが、国内での関心は確実に高まってお

り様々な啓蒙活動の成果であると思います。

コーディネーターの役割を学びながら、マニュアル作成からはじめ、改正を繰り返し形にしていきましたが、まだ活用に至らず実際にその場を経験しないと現場の困りごとは把握しきれないと感じています。少しでも移植医療に興味を持ってもらいたいとの思いもあり、看護部長、五反田さんのサポートのもと、看護部対象の研修も実施することができました。研修後のアンケート結果では厳しい意見もありましたが、臓器移植を前向きに話し合っていくなどの意見が多く聞かれました。今後も、見えない人が見ることが出来るチャンスが無駄にしないようにグリーンリボンの周知にも取り組んで行きたいと思っています。

院内臓器移植コーディネーターとして

独立行政法人国立病院機構 栃木医療センター
看護師長 熊倉 英高

私は、院内臓器移植コーディネーターを4年間務めています。院内臓器移植コーディネーターの主な役割は、病院内における臓器提供者発生時の院内調整、栃木県臓器移植コーディネーターとの連絡調整、ドナー家族の支援、臓器移植に関する普及啓発活動、そして院内体制の整備です。

4年間で、当院では脳死判定患者が発生していないため、脳死状態となった患者家族への臓器移植に関する対応や、臓器提供の意思決定支援に関わった経験はありません。一方、個別の事例として、肺炎患者の臓器提供の相談や、末期患者の家族が親族への臓器移植の希望があることの相談など、患者・家族から臓器提供に関して数件の連絡を受けました。このような個別の事例に対しては、速やかに栃木県臓器移植コーディネーターへ連絡し、対応について相談や指示を受けながら、院内の医師や看護師、家族などへの調整を行っています。

経験は少ないながらも、臓器移植に関する対応を通して、患者や家族はもちろん、職員との関係性の重要性を強く感じています。患者や家族が臓器移植に関する相談をするには、大変な勇気と決断が必要です。その意思決定において、患者や家

族が医療者に声をかけることができる関係性が不可欠です。そして、相談を受けた医療者が上司に報告し、院内臓器移植コーディネーターへ連絡する体制が整っていることも重要です。当院においては、この連絡報告の体制が整っており、これは非常に恵まれた環境であると感じています。

そして、事例発生時の対応について不安を感じて連絡する私に対して、どのようなときにも快く対応してくださる栃木県臓器移植コーディネーターの存在は心強い存在です。

多くの方々に支えられている環境に感謝しながら、院内臓器移植コーディネーターとして、患者・家族、医療従事者、そして関係機関との信頼関係を築き、一人ひとりが臓器移植について理解を深め、積極的に考え、臓器移植への意識を高めることができるよう活動していきたいと考えています。

今年度のアイバンクの活動の現状 目の不自由な方への視力を取り戻す移植

公益財団法人栃木県アイバンク
理事長 小倉 康延

コロナウィルス感染症が、5類に移行により通常通り、献眼が出来るようになり、再スタートをすることが出来ました。感染症が蔓延中、献眼提供の申し出があっても、お断りする場面も多くあり、本当に申し訳なく心が痛みました。

献眼するという申し出は大きな勇気と決断が必要なのは充分理解しているのですが、その心に応えることが出来ないもどかしさの為、まるで悪いことをしている様な気持ちになってしまいました。

今年度は、随分と回復してきて、献眼者の数が、例年に近づきつつあります。

角膜移植は、ドナーの方が亡くなってから移植ができる臓器のひとつで、8時間以内ならば提供が可能です。目の見えない方へ光を届けることができるチャンスなのではないでしょうか。

IPS細胞で再生医療が進んできておりますが、まだまだ実用化までには時間がかかりそうです。

暗闇の中にいる方々に、少しでも多くの光を取り戻す機会を作っていかなければと思っております。

また、次の問題点もみえてきたところです。

現在、働き方改革が進められているところですが、角膜摘出の為の医師も例外ではありません。亡くなるその時間が、夜間または早朝が多く、医局に連絡しても見つからないケースが出てきています。

何人かの先生にお願いして探していただいて、今はまだ何とか追いついておりますが、今後は行ってもらえないケースも出てきそうです。また、先生が見つかっても今度はタクシーが捕まらず何社もタクシー会社に連絡して、やっと見つけているのが現状です。何とか良い解決策を探さないといけないと考えております。

献眼という善意に基づく尊い行為を、無駄にしないで済む方法を模索する必要があります。

社会が変わりつつある中、アイバンクの取り組みも難しくなって来ているのが現状です。目の不自由な人々の明るい第二の人生を取り戻せるよう、県民の皆さまと一緒にがんばりましょう。

身近にあるもの

栃木県臓器移植推進サポーター
BREXY SUMIRE

皆さんこんにちは！

臓器移植推進サポーターに任命していただきました、プロバスケットボールチーム・宇都宮ブレックスチアリーダー BREXY のSUMIREです。

サポーター任命式では、#12 高島選手とともに参加し、決意表明をさせていただきました。

昨年までは新型コロナウイルスの影響により、思うようにPR活動ができなかった期間が続きましたが、徐々に規制も緩和され今年はショッピングモールの特設ブースにてPR活動を行うことができました。昨年に引き続き、ブレックスとコラボレーションした栃木県オリジナルの意思表示カードや高島選手を起用したポスターなどでも普及活動をさせていただいております。一人でも多くの方に臓器移植、意思表示について知っていただけるよう精一杯PR活動に努めていきますので、よろしく願いいたします。

推進サポーターに任命され、臓器提供の意思表示はとても身近にあるものだという事を改めて実感しました。私自身、臓器提供・臓器移植・意思表示などは耳にしたことはありましたが、生活の

中で深く考えることがあまり無かったため、今回このような機会をいただき大変感謝しております。

その中でも臓器移植についてよく目にするようになり、日本では課題になっていることが分かりました。臓器移植を希望している人は約15,000人。しかし、1年のうち移植手術を受けられたのは約400人で2～3%の人しか移植手術を受けることができていないことを知りました。

簡単に決断が出来ることではありませんが、今この瞬間でも臓器提供を望んでいる方がいるということ胸に、家族や身近にいる人たちと話し合うことが必要だと思います。臓器提供意思表示欄には「臓器を提供する」という意思だけでなく、「臓器を提供しない」という意思も表示できるようになっており、どちらの意思も尊重されます。また、その意思はいつでも変更が可能です。意思表示には臓器提供意思表示カードの他に健康保険証、運転免許証、マイナンバーカード、インターネットでの意思登録といった身近なもので意思表示ができます。

意思表示をすることでつながる命があるということを忘れず、自分に合った方法で意思表示をしましょう！

BREXYになって今シーズンで5年目になります。ホームゲームや地域のイベントに参加をし、たくさんの方の笑顔を見て、私も元気をもらってきました。チアリーダーとして、これからも元気と笑顔をお届けし、推進サポーターとしての務めも果たせるよう精一杯活動させていただきます。

最後までよろしくお願いたします。

**慢性腎臓病 (CKD) は
推定患者数 1300 万人超の国民病です。**

体力や心肺機能同様に腎臓の機能も加齢により次第に衰えてゆき、80歳を過ぎると2人に1人はCKD (Chronic Kidney Disease; 慢性腎臓病) と診断されるレベルまで低下します(すなわちCKDの生涯罹患リスクは50%で、がん同様に高率です)。CKDは明確な症状がないまま進行し、現在国民400人に1人は尿毒症に至って透析や腎移植を受けています。そして症状のない早期から心臓病、脳卒中など命に関わる合併症のリスクが増加するので、腎臓を守るための健康習慣

を若いうちから意識する必要がありますが、CKDという病名を知る人は国民の1割未満です。

私たち RAV-CKD (CKD 啓発動画研究会) はCKDの認知率向上を目指して、2010年秋より啓発動画の製作と、YouTube公開(図1)を続けており、動画配信14年目に入った2024年1月下旬時点で総再生回数は34万回弱となっています。また日本にとどまらず世界中の若い世代に向けての情報発信を意図して2021年7月に開設したInstagram(図2、QRコード)はフォロワーが1700人超、月間訪問者は1000人を超えております(再訪はカウントせず)。

これら映像の配信とともに、CKD啓発支援音楽コンサートや健康のための講習・イベントも毎年開催しており、2020年からつづくCOVID-19パンデミック下でも、感染リスクを避けるためにインターネット活用して途絶えることなく開催しました。2023年は集会などの行動制限が解除されたので、5月14(日曜)に新潟大学医学部や新潟県透析医会からの支援を得て新潟市のホールでの啓発支援コンサートを開催することができました(図1)。

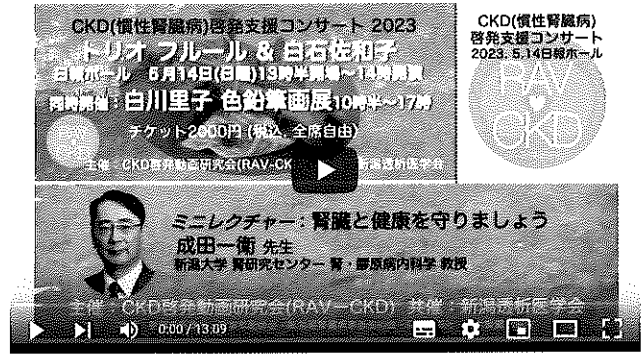
さらに今年度はこれまでの啓発活動や下記の運動イベントを通じて医療、福祉、健康の関連団体とのネットワークが広がりました。看護師のボランティア団体であるみんなの保健室の活動に協力して2023年10月よりCKD啓発のための講習の定期開催を始め(図3)、2024年度も継続の予定です。また栃木県の糖尿病療養指導士会や在宅保健師会、鍼灸マッサージ協会などとも協力し、CKD啓発のための講演・講習を行いました(図4)。

健康に不可欠な運動習慣の普及もRAV-CKDの活動開始当初から意識している点であり、下野運動療法勉強会(STEC)という透析患者や市民を交えたサークルと共同してCKDについての情報を提供しています。その中で2017年10月から年2回継続している誰でも参加自由な田川スロージョギングという公開運動(図5)は、2023年10月で第13回目となりました。最近では宇都宮の田川ぞいに限らず、県内外各地で少人数のグループを作り、グループ間をLINEミーティングというビデオ通話アプリで繋いで同時多元ライブ中継する形式として広がりを見せ、2024年も3月31日と4月7日、そして10月の

図1 2023年公開の新作 YouTube 音楽動画 (5月の新潟コンサートと講演)



<https://www.youtube.com/watch?v=9sZMV5-peG0>



<https://www.youtube.com/watch?v=PmTubictO-o>

図2 CKD 啓発動画研究会(RAV-CKD)の Instagram アカウント



図3 2023年10月から「みんなの保健室」で毎月第1木曜午後には腎臓を守る健康教室の定期開催開始

みんなの保健室 腎臓と運動 机上学習資料 2023年12月6日制作

CKD(慢性腎臓病)

国際医療福祉大学病院 予防医学センター/腎臓内科
CKD啓発動画研究会(RAV-CKD)
下野運動療法勉強会(STEC)
安藤 謙哉

CKD(慢性腎臓病)とは

・尿、血液検査が、画像診断が、病理検査上の腎障害
・糸球体濾過量(GFR)が60ml/分/1.73m²未満
のいずれかが3ヶ月以上持続する状態。

※GFR = 腎臓で血液からろ過される液体の量(通常1日の尿量、血清クレアチニン濃度から計算し、体表面積1.73m²あたり毎分90ml以上が正常)

NPO法人 サロンみんなの保健室だより R5.9月号

「サロンみんなの保健室」は3周年を迎えました。これもひとえに皆様のご支援とご協力のおかげで感謝申し上げます。3年間活動し見てきたことを少しずつ具現化し活動に生かしていきたいと思っております。これからも、相談員一同、利用者の方々に丁寧に向き合っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします
代表：渡邊カヨ子

令和4年9月～令和5年8月		令和4年9月～令和5年8月				
利用状況	合計	出前健康相談実施	会場			
① 1人身体検診	195	場所	会場			
② 尿検査・血液検査	2	7月香取	香取 34人			
③ 腎臓病教室	1	10月茨城	茨城 34人			
④ 運動検診	105	10月千葉センター	千葉1回 98人			
⑤ 運動検診	211	10月千葉センター	千葉1回 44人			
⑥ 運動検診	1	臨時の出前健康相談実施	令和4年9月～令和5年8月			
⑦ 運動検診	3	日	曜日	実施先	場所	利用者
⑧ 運動検診	129	9月8日	木	わながりサポ-イベント	ベルモール所	11人
⑨ 運動検診	12	10月30日	日	インターナショナルフェスティバル	コンセール所	25人
⑩ 運動検診	33	11月13日	日	宇都宮市ウォーキングフェスタ	福祉分館 看護棟	9人
⑪ 運動検診	10	3月25日	土	とくご地域福祉支援センター(きらくまき6号)	西小中学校	6人
⑫ 運動検診	4	5月7日	日	日本指圧愛好会 同の日イベント	宮みらい1号	10人
⑬ 運動検診	36					
⑭ 運動検診	152					
⑮ 運動検診	0					
⑯ 運動検診	72					
⑰ 運動検診	72					
⑱ 運動検診	201					
⑲ 運動検診	7					
⑳ 運動検診	1					
㉑ 運動検診	1					
㉒ 運動検診	229					

運動は万病の薬！
新企画

10月～ 第1木曜午後2時～3時
STEC・腎臓内科による
健康講話と実技 10名予約制

体件を揃えよう！

大塚孝教室
講師：白井佳子
毎週水曜 午前10時～11時半
5名予約制 500円(お茶付き)

みんなの保健室の相談員に精神保健福祉士が入りました。
活動メンバーは、保健師2名・助産師1名・看護師3名・社会福祉士1名・精神保健福祉士1名の計8名です。
※水・木曜13時30分～17時30分(予約は17:00)まで、ご利用ください。

バランスの良い食事としっかり睡眠と運動習慣で健康な日々を

図4 栃木県鍼灸師会主催の
健康イベントに協力
(2023年10月JR宇都宮駅東口
宮みらいライトヒル)

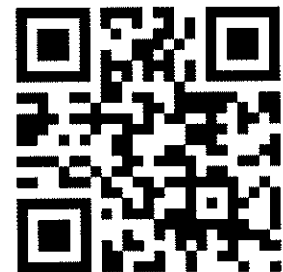


図5 2023年10月開催の
オンラインハイブリッド版
田川スロージョギング
(第12回)



<https://www.youtube.com/watch?v=Lq7ZfPpFJ0U>

図6 RAV-CKD ホームページ



日曜にも開催予定です。

無論これら全て合わせても、膨大なCKDの患者数から見ると極めてささやかな活動にすぎませんが、CKD啓発の長期継続を通して、少しずつでもCKDの認知が広がることを願っています。皆様もぜひRAV-CKDホームページ(図6、QRコード)から上記でご紹介した各種動画やInstagramのアカウント(図2、QRコード)の写真と動画をご覧いただき、また4月、10月の田川スロージョギングにもご参加いただいて、CKDの認知度向上にご支援・ご協力のほどよろしく願いいたします。

2024年2月 RAV-CKD代表幹事 安藤康宏
(国際医療福祉大学予防医学センター・腎臓内科)

協会から

栃木県慢性腎不全治療の概要

協会では、前身の腎不全対策協会発足時から20有余年にわたり、毎年、栃木県内の人工透析医療実態調査を行い、透析患者数の推移などについてデータ化し、腎不全治療に役立てていただくため、公表しております。これも透析医療機関の皆様方のお陰でありまして、改めてお礼を申し上げます。

令和4年末における人工透析医療実態調査の主な結果は次のとおりです。

透析患者は、右の患者数推移のグラフのとおり急激な増加の時代は終わったように思えますが、本県では未だ、なだらかな増加傾向が続いています。全透析患者の原疾患別の割合では、糖尿病性腎症が45.5%(前年比1.2ポイント増加)、慢性糸球体腎炎が25.8%(前年比0.4ポイント減少)で、糖尿病の割合は相変わらず多くなっています。次いで、腎硬化症、のう胞腎の順となっております。

1. 人工透析施設の動向

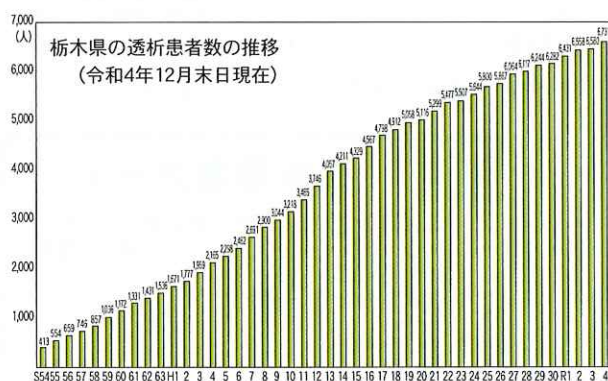
	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年
透析施設数	82	83	80	78
同時透析能力	2,906	2,864	2,860	2,804
患者収容能力(人)	8,182	8,217	8,053	8,123
CAPD実施施設数	14	10	10	9
夜間透析実施施設数	38	37	37	38

2. 透析患者の動向

	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年
(1)透析患者総数(人)	6,731	6,580	6,558	6,431
入院患者数	516	518	433	527
透析方法				
①血液透析	6,587	6,461	6,418	6,311
(うち HDF)	1,707	1,362	969	820
(うち家庭透析)	12	7	5	7
②腹膜透析		119	140	120
(血液透析併用含む)	144			
(2)透析導入・死亡(人)				
年間透析導入患者数	760	839	820	864
年間死亡患者数	822	738	804	705

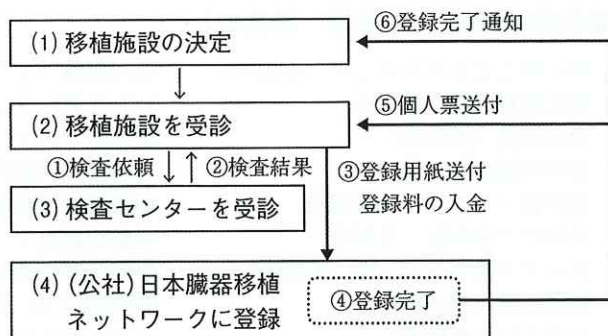
3. 腎臓移植の現況

	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年
(1)年間腎臓移植患者数	38	17	19	34
献腎移植	3	0	1	5
生体腎移植	35	17	18	29
(2)腎臓移植者総数(累計)	705	667	650	631
献腎移植	97	94	94	93
(3)臓器提供者数(年間)		1	1	2
{ 献腎(心停止後腎臓提供)	1	0	0	0
{ 脳死下臓器提供	0	1	1	2
臓器提供者数(累計)	33	32	31	30



献腎移植希望の登録について

献腎移植を希望する場合は、(公社)日本臓器移植ネットワークに登録する必要があります。栃木県での手続きは次のとおりとなります。



(1) 移植施設の決定（栃木県の場合）

腎臓 自治医科大学附属病院／獨協医科大学病院
※担当医師とよく相談し、紹介状を書いてもらいます。なお、上記病院の電話番号は次のとおりです。

自治医科大学附属病院（TEL 0285-44-2111）

獨協医科大学病院（TEL 0282-86-1111）

(2) 移植施設を受診

健康保険証、身体障害者手帳、紹介状を持参し受診します。

(3) 検査センターを受診（栃木県の場合）

◆自治医科大学附属病院 輸血・細胞移植部

◆獨協医科大学病院 臨床検査部

組織適合検査（採血のみ）を行います。検査費用は施設によって異なりますが、4万円前後です。

①腎臓のほかに、膵臓及び膵腎同時移植でも組織適合性検査が必須となります。

②腎臓、膵臓及び膵腎同時移植に係る組織適合

性検査費用に対しては一部助成制度がありますので、（公財）栃木県臓器移植推進協会（TEL 028-625-7350）にご確認ください。

(4)（公社）日本臓器移植ネットワークに登録

登録料は3万円です。次の年からは更新料として毎年5千円かかります。

なお、登録料及び更新料は医療費控除の対象となります。また、生活保護世帯の方や生活保護世帯以外の生活困窮者の方は費用が減免になります。

詳しくは、（公社）日本臓器移植ネットワークのホームページ(www.jotnw.or.jp)で御確認ください。

(5) 次の臓器も栃木県の医療機関で移植を受けることができますが、いずれも（公社）日本臓器移植ネットワークへの移植登録が必要となります。

肺 獨協医科大学病院

肝臓 自治医科大学附属病院

膵臓 自治医科大学附属病院／獨協医科大学病院

小腸 自治医科大学附属病院

透析医療関係のみなさまへ

透析患者さんの不測の事態に備え、「緊急透析患者カード」を配布しています。

御希望の透析医療機関は、「公益財団法人栃木県臓器移植推進協会」までお申し出ください。

オ モ テ	緊急	透析患者カード
	私は腎不全のため透析治療を受けています。もし、気を失ったり、倒れていた時は、最寄の医療機関に運ぶとともに、すぐに下記の透析医療機関に通報して下さい。	
	病・医院名	
	電話番号	
	住所	

ウ ラ	緊急	氏名	血液型 ()
	生年月日	M T S H	年 月 日生
	住 所		
	自 宅	電話	
	非常時連絡	電話	
	公益財団法人 栃木県臓器移植推進協会		
	電話 028-623-3086		

御 礼

この度は、臓器移植普及推進のための募金活動に御理解と御支援を賜りまして、厚く御礼申し上げます。今後とも、臓器移植推進活動の一層の充実に努めて参ります。本当にありがとうございました。

●医療機関等（50音順、敬称略）

青い鳥こどもクリニック（小山市）

青木眼科医院（栃木市）

青木病院（足利市）

足利市医師会（足利市）

足利腎クリニック（足利市）

足利赤十字病院（足利市）

あんずの森クリニック（下野市）

飯塚医院（那珂川町）

飯野医院（真岡市）

石川医院（上三川町）

いちえ眼科クリニック（宇都宮市）

樹レディスクリニック（小山市）

上野医院（那珂川町）

宇都宮協立診療所（宇都宮市）

宇都宮健康クリニック（宇都宮市）

宇都宮市保健所（宇都宮市）

宇都宮腎・内科・皮膚科クリニック（宇都宮市）

えぐち内科クリニック（栃木市）

江曾島眼科医院（宇都宮市）

おおくぼみはなのどクリニック（鹿沼市）

大栗内科（下野市）

大場医院（宇都宮市）

おおはしアイクリニック（日光市）

おかべこどもクリニック（下野市）

栃木県立岡本台病院（宇都宮市）

奥田クリニック（宇都宮市）

おだかキッズクリニック（下野市）

小山整形外科内科 (小山市)
 皆藤病院 (宇都宮市)
 柏木医院 (小山市)
 柏倉医院 (宇都宮市)
 加藤クリニック (小山市)
 かるべ皮膚科小児科医院 (矢板市)
 川野クリニック (宇都宮市)
 神野医院 (小山市)
 きぬの里クリニック (さくら市)
 越戸クリニック (宇都宮市)
 小嶋内科 (宇都宮市)
 小菅胃腸外科クリニック (真岡市)
 御殿山クリニック (宇都宮市)
 小林医院 (さくら市)
 小林診療所 (真岡市)
 済生会宇都宮病院 (宇都宮市)
 さいとう医院 (宇都宮市)
 さくらトータルケアクリニック (宇都宮市)
 佐藤クリニック (さくら市)
 佐藤皮膚科クリニック (宇都宮市)
 サンライズクリニック (栃木市)
 自治医科大学附属病院 (下野市)
 栃木県柔道整復師会 (宇都宮市)
 白澤病院 (宇都宮市)
 新宇都宮リハビリテーション病院
 (宇都宮市)

せき内科・胃腸科クリニック (小山市)
 そはら内科 (宇都宮市)
 高橋クリニック (宇都宮市)
 竹村内科腎科クリニック (鹿沼市)
 都賀中央医院 (栃木市)
 つちだ内科クリニック (宇都宮市)
 坪水医院 (佐野市)
 手塚耳鼻咽喉科医院 (宇都宮市)
 栃木県医師会塩原温泉病院 (那須塩原市)
 とちぎスポーツ医学センター (宇都宮市)
 とちぎメディカルセンター (栃木市)
 栃木リウマチ科クリニック (宇都宮市)
 獨協医科大学日光医療センター (日光市)
 友井内科クリニック (小山市)
 豊郷台クリニック (宇都宮市)
 中川医院 (那須塩原市)
 中川内科クリニック (宇都宮市)
 中野病院 (栃木市)
 中山内科医院 (足利市)
 那須赤十字病院 (大田原市)
 西方医院 (栃木市)
 西那須野内科循環器科クリニック
 (那須塩原市)
 二宮中央クリニック (真岡市)
 二宮中央腎・健診クリニック (真岡市)
 橋本医院 (栃木市)

橋本腎内科クリニック (栃木市)
 はらクリニック (那須塩原市)
 ひらいで公園腎科クリニック (宇都宮市)
 平野外科医院 (佐野市)
 藤井脳神経外科病院 (宇都宮市)
 特別養護老人ホーム宝寿苑 (宇都宮市)
 栃木県保健衛生事業団 (宇都宮市)
 ましこ令和クリニック (益子町)
 増田内科医院 (佐野市)
 増山胃腸科クリニック (大田原市)
 松島眼科医院 (佐野市)
 松本内科医院 (壬生町)
 水沼医院 (那須烏山市)
 みなみ整形外科 (小山市)
 みやの杜クリニック (宇都宮市)
 村山医院 (宇都宮市)
 目黒医院 (宇都宮市)
 真岡病院 (真岡市)
 真岡メディカルクリニック (真岡市)
 矢板南病院 (矢板市)
 山崎小児科医院 (宇都宮市)
 山田クリニック (矢板市)
 吉原医院 (日光市)
 両毛病院 (佐野市)
 養護老人ホーム 若草園 (大田原市)
 渡部医院 (那須塩原市)

● 県庁各機関・県立学校 (50音順、敬称略)

足利労政事務所
 安足県税事務所
 安足土木事務所
 安足農業振興事務所
 板室管理支所
 今市発電管理事務所
 宇都宮県税事務所
 衛生福祉大学校
 大田原県税事務所
 大田原土木事務所
 栃木県立岡本特別支援学校
 小山環境管理事務所
 小山労政事務所
 栃木県庁会計管理課
 鹿沼県税事務所
 鹿沼土木事務所
 上都賀農業振興事務所
 河内農業振興事務所
 栃木県庁環境森林政策課
 栃木県庁環境保全課
 栃木県庁観光交流課
 栃木県庁監査委員事務局
 栃木県庁管財課
 栃木県庁感染症対策課
 栃木県庁監理課
 栃木県庁危機管理課
 栃木県企業局経営企画課
 栃木県庁気候変動対策課
 栃木県庁技術管理課

北那須水道事務所
 栃木県企業局電気課
 河内教育事務所
 栃木県教育委員会義務教育課
 栃木県教育委員会教育政策課
 栃木県教育委員会健康体育課
 栃木県教育委員会高校教育課
 塩谷南那須教育事務所
 下都賀教育事務所
 栃木県教育委員会生涯学習課
 栃木県庁行政改革 ICT 推進課
 栃木県教育委員会特別支援教育課
 那須教育事務所
 栃木県庁経営技術課
 栃木県庁経営支援課
 栃木県庁経済流通課
 下水道管理事務所
 県央家畜保健衛生所
 県央産業技術専門校
 栃木県庁健康増進課
 県西環境森林事務所
 県西健康福祉センター
 栃木県庁建築課
 県東環境森林事務所
 県東健康福祉センター
 県南家畜保健衛生所
 県南技術支援センター
 県南健康福祉センター
 県南児童相談所

県北環境森林事務所
 栃木県立県北技術専門校
 県北児童相談所
 栃木県庁県民協働推進課
 公園事務所
 栃木県庁工業振興課
 栃木県庁広報課
 栃木県庁高齢対策課
 栃木県庁国際交流課
 栃木県庁国保医療課
 栃木県庁砂防水資源課
 産業技術センター
 塩谷南那須農業振興事務所
 栃木県庁資源循環推進課
 栃木県庁自然環境課
 栃木県庁市町村課
 栃木県庁指導監査課
 自動車税事務所
 下都賀農業振興事務所
 栃木県庁住宅課
 障害者総合相談所
 栃木県庁障害福祉課
 消防学校
 栃木県庁消防防災課
 栃木県庁職員厚生課
 食肉衛生検査所
 栃木県庁人権男女共同参画課
 栃木県庁人事委員会事務局
 栃木県庁人事課

栃木県庁森林整備課
 栃木県企業局水道課
 栃木県庁スポーツ振興課
 栃木県庁生産振興課
 精神保健福祉センター
 繊維技術支援センター
 総合教育センター
 栃木県庁総務事務センター
 栃木県庁畜産振興課
 畜産酪農研究センター
 中央児童相談所
 栃木県庁デジタル戦略課
 東京事務所
 栃木県庁統計課
 動物愛護指導センター
 栃木県庁道路保全課
 栃木県庁都市計画課
 栃木県庁都市整備課
 栃木県立図書館
 栃木健康福祉センター
 栃木県税事務所
 栃木土木事務所
 那須広域ダム管理支所
 栃木県立那須特別支援学校
 那須農業振興事務所
 日光土木事務所
 農業環境指導センター
 農業試験場いちご研究所
 農業大学校

栃木県庁農政課
栃木県庁農地整備課
芳賀農業振興事務所
栃木県庁文化振興課

保健環境センター
栃木県庁保健福祉課
栃木県立盲学校
栃木県真岡県税事務所

栃木県矢板県税事務所
矢板森林管理事務所
矢板土木事務所
栃木県立矢板東高等学校

林業センター
栃木県庁林業木材産業課
栃木県庁労働委員会
栃木県庁労働政策課

●募金機関：235 機関

●募金総額：1,339,434 円（令和 6 年 3 月 12 日現在）

支援型飲料自動販売機の設置について（お願い）

当協会は、財産運用収入が年々減少し、収入確保が課題の一つとなっております。

そのため、収入の増加とPR強化を目的に、平成 29 年度からFVジャパン（株）、平成 30 年度からコカコーラボトラーズジャパン（株）の御協力で、支援型飲料自動販売機の設置事業を開始いたしました。この事業は、自販機の設置者様が指定する公益団体に売上の一部（寄付額は任意）を寄付するもので、飲料購入者も間接的に公益事業を支援するものです。自販機にはチラシなどを掲示でき、オリジナルデザインの自販機を設置することもできるため、PR効果も期待できます。

県内では現在 10 台が稼働しており、これらの自動販売機からは毎月寄付金をいただいているほか、臓器移植推進PRにも貢献しています。

この支援型飲料自動販売機の設置事業に御理解をいただき、広く、医療機関開設者の皆様に自販機の設置に御協力くださいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。詳しくは当協会事務局にお問い合わせください。（TEL 028-625-7350）

○既に設置している医療機関等は次のとおりです。

獨協医科大学病院／医療法人慈啓会白澤病院／自治医科大学附属病院／済生会宇都宮病院
栃木県職員生活協同組合（県庁本館 5 階健康増進課前）／医療法人青木眼科医院
医療法人ナイルス宇都宮腎内科皮膚科クリニック／社会福祉法人鶯和会 和見の里
医療法人大香会 みやの杜クリニック／医療法人博愛会 杉村病院（順不同、敬称略）



編集後記

○協会だより第 34 号（令和 5 年度版）を発刊し、皆様にお届けすることができました。これもひとえに、お忙しい中での関係者各位の御協力の賜物と、厚く御礼申し上げます。

○今年度から当協会に参りまして、不慣れながら様々な事業やイベントを経験させていただきました。そんな中、2 月に入ってからのことですが、宇都宮ブレックスとの連携によるホームゲームでの啓発活動を宇都宮市内のブレックスアリーナで行いました。



我々は、2 階ブースで啓発用ポケットティッシュをお客様に配布しておりましたが、向いは福井県さんの PR ブースでした。我々より一足早く福井県さんが PR を終えた時、何と同県の恐竜キャラクターのラプトくんが、我々のティッシュ配布のお手伝いをしてくれました!! お陰様でティッシュは飛ぶようにお客様の手に・・・本来なら、私どもが元気の応援をすべきところ、感動をいただきました。（K 生）

